

伝統を重んじて新たな道を模索

宇和島農産株式会社 取締役 薬師寺 麻美



「養蜂」という世界の魅力

宇和島農産株式会社が養蜂を開始したのは70～80年前からと長い歴史を持つ。現取締役の薬師寺麻美さんは、一度都心部で就職した後、家族の病気などもあって事務職をするため宇和島農産株式会社に転職。徐々に養蜂の世界の面白さを感じ、事務作業から一転して生産、加工、販売を担うこととなった。「養蜂」という伝統的な世界の作業を重んじつつ、若年層向けの商品開発といった新たな取組を進めてきた。



蜜を貯めるミツバチ

昔日の思いを乗せた「&」シリーズの販売

就職した当時、ハチミツの需要は主に中高年向けが多かったが、薬師寺さんは若年層向けの商品も開発する必要があると考えていた。時は流れてコロナが大流行し、新たな商品や消費者へのインターネットを活用したPRの重要性を再認識することとなった。当時の思いが現在につながり、美しい見た目と様々な味を楽しむことができる「&」シリーズを開発し、インスタ等を活用することで様々な年齢層へ商品を届けている。



さまざまなフレーバーがある「&」シリーズ

仕事内容

ミツバチの飼育、蜂蜜の生産、加工、販売等

設立のきっかけ

祖父の代で養蜂を始めて組合組織を設立後、徐々に規模が拡大し法人化

経営理念

安心して食べられるものづくり
「養蜂」という伝統を守り、新たな取組を

設立

昭和54年

蜂蜜の奥深さとこれからの経営について

ミツバチの社会的な生活は知れば知るほど奥が深く楽しいです。特に、蜂蜜は国産であっても、その蜜源（ミツバチが採取する花のある地域）が異なるため、地域毎の味を楽しむことができます。

自分で作ったものがお店に並び、消費者に届くことは大きな喜びです。近年、蜂蜜の価値が再認識され、若い方々にも届いていることが分かり、伝統的な世界に新たな可能性を感じているとのこと。



宇和島農産で飼育しているミツバチ